

---

---


# 木材を効果的に使うために

～デザインの現場から～


北海道東海大学助教授 三 上 純

---

---



デザインの世界に身を置いているものにとって厄介なものの一つに、デザインとは何かという解釈の問題があります。内容としては「ものに形を与える作業」と定義付けてよいと思いますが、実はそのデザインという言葉、以前は図案、意匠、構成、設計、計画などと様々な日本語による定義付けが試みられていました。しかしながら、どれも何となくニュアンスが違うということで定着せず、最近ようやく「デザイン」という言葉のまま市民権を得てきたのはご存じの通りです。



日本語で定義付けするのに抵抗があったのは、あまりにも抽象的で漠然とした領域に広がっているからでしょう。デザインの領域の広さを示す言葉で「口紅から機関車まで」という有名な言葉がありますが、最近ではさらに拡大してきています。大まかにその内容を分類しますと、グラフィックデザインやヴィジュアルデザインなどの「平面」を扱うものや、家具や工業製品など「立体」を扱うもの、インテリアや建築の領域に関わる「空間」、さらには我々の住む街や居住環境全体にわたる「環境」のデザインまでおよび、まさに「一つの文字から街づくりまで」の広い領域にまたがる言葉となってきました。

今回は私が関係している「空間」や「環境」の領域から「木」を効果的に使っていると思われる事例を紹介したいと思います。

一般に日本の「木の文化」に対して西欧は「石の文化」といわれますが、西欧の街々を拝見すると、我が国とは違った意味で感動するほど効果的に木を使っている例をみかけます。都市空間の無機質で秩序だった石の素材感を和らげるかのよう

に、街のあちこちに「木や花」の存在が認められます。分かりやすく言いますと、石の空間だからこそ街路樹を植え、花で飾り、木を使うべき所にちゃんと木を使うという図式が成立しています。西欧の都市空間において、我々は石の空間に身を置きながら、実は無意識に木の恩恵に浴しているわけです。

海外旅行をした若い女性にとりわけ人気の高いコースが、ドイツのロマンチック街道だといわれています。中世の街並みが残る小都市を巡り、メルヘンの世界へいざなうというのがキャッチフレーズです。街を構成している建築の多くは「ハーフティンバー（半木骨構造）」構造の木材を露出して漆喰で塗りかためる手法で、ドイツ、スイス、イギリスに多く残っているものです。ハーフティンバーの魅力は石と木と土のバランスのよい共存と、ともすれば無表情になりがちな建築ファサードに対して絵画的な効果を与えることだと思われます。しかし、人気の秘密を考えるに、実は日本人にとって心象風景とでもいうような、木への郷愁感が潜在的に働いているせいではないのでしょうか。石の空間の中でいつのまにか木に触れている喜びや安堵感がそのような効果を増幅させているのだと思われます（写真1）。

デンマークのコペンハーゲン駅。国際列車が発着する大変賑やかなターミナル駅です。外壁はレンガですが、内部はご覧のような木製トラス天井です。私の周辺でこの駅を訪れたことのある人達は、この人間的な空間に触れた印象を例外なく「北海道に帰ったようなホッとした感じ…」と言います（写真2）。

2枚組の写真はニューヨークのマンハッタンの東南端にあるフルトンマーケットという新名所です。ウォーターフロント再開発の一環として古い魚市場や倉庫群、棧橋（ピア）などが改造され、親しみのあるショッピング街に生まれ変わりました。この棧橋の床が全面木のデッキなのです。ここは世界金融の中心ウォール街から歩いて来られる距離にあり、夕方になると食事や夜景を楽しむビジネスマンであふれ返ります。木の床はビジネスマンの疲労回復上、視覚的にも触覚的にも最適と思われませんが、木であってほしい所に大量に木を使う—そんな適材適所のポリシーが伝わってきます（写真3、4）。



写真1 ハーフティンバーの建築  
(ドイツ・ニュルンベルク)



写真2 コペンハーゲン駅

写真5は、アメリカのハイウェイに時々見られる木製防音壁です。木材の大量使用の好例ですが、どんな地形にも適合させようとする工夫と、



写真3 フルトンマーケット全景 背景は  
ウォール街の高層建築群 (ニューヨーク)



写真4 フルトンマーケット棧橋部分の床全景  
(ニューヨーク)

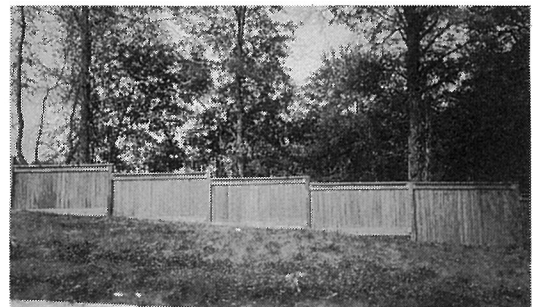


写真5 ハイウェイの木造防音壁 (ニューヨーク近郊)

破損があった場合取り替えが可能なような工業デザインのディテールが認められます。

これもアメリカにおいてよく見られたケースですが、スーパーマーケットでは実にのびのびと木を使っています。何の特徴もない外観とうって変わって、内部は集成材や板張り、シングル葺きなど圧倒的な量の木を用いています。木は人間的でアットホームな印象を与える役目を担っているようです(写真6)。

最近、都市空間に木のストリートファニチャーや遊具が置かれるケースが多くなってきました。写真は名古屋市若宮大通り公園の木製遊具ですがこれほど木が大量に視野に入る遊具は珍しいと思います。若宮大通り公園は高速道路の下に作られた約1kmのモールで、そのうち400mにあたる部分は木製デッキが敷かれています。この遊具はその一角に置かれてあるわけですが、なおかつ遊具のある箇所は橋脚部にも板が張り回されており



写真8 板張りの橋脚部(名古屋市)

ます。木製遊具というとにかく角材を組み合わせるケースが多い中で、この遊具は面的な印象を強く与え、木製遊具のデザインというよりは「木による遊びの空間作り」を目指した好例と言えます。樹種はすべてダグラスファーで、防腐処理されているとのことです(写真7, 8)。

次に私の設計例を中心に、建築、インテリアの空間作りの視点から述べてみたいと思います。

設計の仕事に携わる人間は誰も「住みよさ」を追求します。この「住みよさ」という極めて抽象的な概念を、デザインをする側からもう少し掘り下げると、「豊かさ」「暮らしやすさ」「美しさ」の三つの要素に分類されると思います。いかに広く、安全でつろげる空間を演出するか、いかに使いやすく便利な空間を作るか、そしていかに美しい空間に楽しく幸せに住むか、という命題を掲げてデザイン作業に関わっているわけです。今回紹介する事例は、木の使い方というテーマに対し「豊かさ」「美しさ」という接点でつながっているものと思われます。

これは私にとっての最初の木造住宅です。ローコスト住宅のリビングルームの一角ですが、木の感触や色調は欲しいが木目を出したくないという矛盾に対し、セン化粧合板横張りという結論に達した例です。板厚感を持たせたいため、深い角目地のものを探すのに相当の時間がかかったことを思い出します。安価な材料でも大面積で使っていると、「豊かさ」の創出という点で想像外の効果があるものです(写真9)。

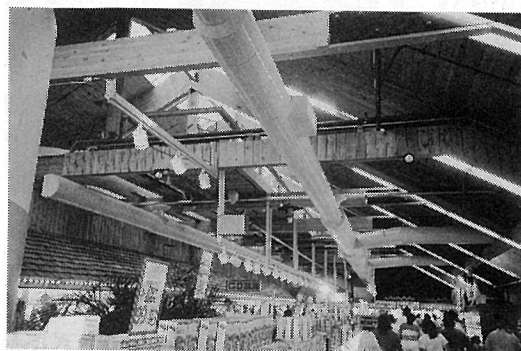


写真6 板張りで統一したスーパーマーケットの内装  
(コネチカット州)



写真7 高速道路下の木製遊具(名古屋市)



写真9 セン化粧合板張りのインテリア

私の場合、必ずしも設計例は多くはありませんが、共通していることは「ローコストながら大らかな空間を」という要求があったことです。したがって、安価な材料でどうしたら広々とした空間が演出できるかが必然的な条件となります。今一つの共通点は、「偽物は使いたくない」というはっきりした主張でしょう。若い人ほど本物志向の傾向があるのはよく知られていますが、家作りにおいても同様で、プリント物や張り物は敬遠され安価でも自然な状態に近い材料が求められています。写真のインテリア施工例は、露出している構造材と枠材を除けば壁・天井・建具ともシナ合板で統一した例です。石こうボードにクロス張りが全盛のご時世ですが、若い施主は意外と木の素材感を素直に受け入れる傾向があります。このケースでは子供を自然に育てたいという希望から木のインテリアが求められましたが、赤身よりは白身の色調を好み、木目の美しさよりは木目のおとなしさを好むという若い人の嗜好に答えられる材料としてシナ合板を選びました。床は厚さ15mmのむくのナラフローリング材です(写真10)。

最近の建築雑誌によると、一時全盛のカーペットが影をひそめ、床材に木質系素材が復活してきました。木造、コンクリート造にかかわらず、ナラ・カバむく材のフローリングへのラブコールが



写真10 シナ合板張りの壁

大きいようです。道内ではあまり例がないと思いますが、雑誌で紹介されるコンクリート系の住宅では、判で押したようにナラフローリングが使われています。しかしながら、資源枯渇の問題に直面して高級品化し、今や受注生産品となってしまいました。したがって、コストはもちろん加工手間や張り手間がかかり、敬遠されているのが実情ではないでしょうか。写真はそのような現状で一点豪華主義とでもいうべきむくのナラフローリング材を張ったもう一つの例です(写真11)。

外壁に木を使った例をご紹介します。

カラマツの羽目板張りの外壁例です。カラマツはインテリア空間においては木目のうるささと赤い色調が必ずしも若い人から好まれない樹種で、ロフト的な空間や店舗の壁などに部分的に使われるケースが多いようですが、外壁となれば抵抗はないようです。むしろ、油脂を含む材質だけに、法規上の問題を解決しさえすればおおいに可能性のある素材だと思いますが、使用例はあまり多くないようです。高価な素材になりつつあるせいでしょうか(写真12)。

同じように青木(ここではトドマツ)を張りめぐらした例。材料より張り手間の方が高くつく、という昨今の傾向をつくづく思い知らされた設計例でもあります。職人さんが敬遠するという実情

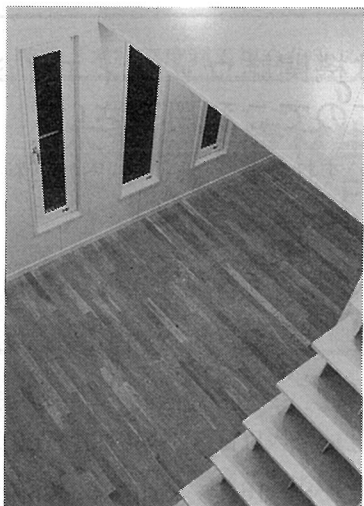


写真11 むくのナラフローリング張りの床



写真13 トドマツ張りの外壁

ての素材の一つに過ぎないとする西欧的発想がかえって異なる素材と組み合わせながら木を上手に使っている例が、この場合よい参考になると思います。

さらに、日本人特有の現象として、樹種に品位等級をつける習慣があります。また白木の自然な材質感を好んだり、板目よりはまさ目を高価とする傾向も根強いものがあります。考えなければいけないことは、高価な樹種が住みやすさや美しさに直結するわけではないということです。若い人にとっては、安価で質感が良ければどんな樹種でも構わない。自然な形で素直におおらかに使いたいと考えているのです。

『インテリア空間には様々な「もの」が持ち込まれ、お互いに形や色を主張する。空間の「地」となる壁や天井の材料がその存在を主張したら、空間は大混乱してしまう。むしろ、それぞれの主張を抑えるような、ニュートラルで落ち着いた地であって欲しい。木のぬくもりは大好きだが、木目や節は控えめでありたい。』これは、設計の過程でよく聞かれる若い施主の意見です。ただ残念ながら、若い人の嗜好性を満足し、かつ経済的に折り合える製品となると必ずしも多くはないというのが実情のような気がします。

私のまずい設計例を通してこのあたりの問題を少しでもご理解頂き、何らかの参考にして頂ければ幸いに思います。

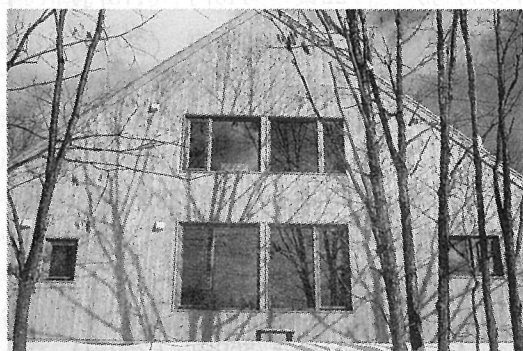


写真12 カラマツ張りの外壁

があるようです(写真13)。

豊かで美しい空間作りという観点から、木を使った例をいくつか見てきましたが、住宅におけるデザインとは何かという話に立ち帰りますと、「高度なデザイン」とか「意匠性が高い」とかよくいわれていますが、意匠性=装飾性(加工装飾性)ではないのです。デザインとは決して装飾を施すことではありません。空間の特性、経済的な条件、施主の好みや意向を的確に把握して、それに一つの答えを出してゆくという全体的、総合的な仕事です。そして今一つ大事なことは、いかに組み合わせるかということでしょう。木はすべ

社団法人 北海道林産技術普及協会では機関誌ウッドエイジ  
(B5版)の特集号を頒布していますのでご利用下さい。

価格はいずれも実費 ( )内は送料

・特 集 号

|                   |             |     |        |        |
|-------------------|-------------|-----|--------|--------|
| カラマツを使ってみませんか     | (昭和56年)     | 25頁 | 400円   | (175円) |
| Theおがこ            | (昭和58年)     | 26頁 | 400円   | (175円) |
| 窓(木製サッシの実用例集つき)※  | (昭和59年1月号)  | 35頁 | 700円   | (250円) |
| 木材工業とマイコン※        | (昭和59年11月号) | 17頁 | 340円   | (175円) |
| 木製軽量トラス※          | (昭和59年12月号) | 16頁 | 320円   | (175円) |
| 木の良さ再発見           | (昭和60年1月号)  | 22頁 | 300円   | (46円)  |
| 今なぜ広葉樹か※          | (昭和60年3月号)  | 22頁 | 440円   | (175円) |
| カラマツ・セメントボード※     | (昭和60年10月号) | 43頁 | 860円   | (250円) |
| 単板積層材※            | (昭和60年11月号) | 30頁 | 600円   | (250円) |
| キノコ(その1)          | (昭和61年3月号)  | 29頁 | 500円   | (46円)  |
| 木材の農畜産業への利用※      | (昭和61年5月号)  | 27頁 | 540円   | (250円) |
| 「木の家」百年持たせます※     | (昭和61年9月号)  | 23頁 | 460円   | (175円) |
| キノコ(その2)          | (昭和61年11月号) | 23頁 | 600円   | (46円)  |
| 林産試験場の成果※         | (昭和62年1月号)  | 43頁 | 860円   | (250円) |
| 林産試験場移転整備※        | (昭和62年5月号)  | 25頁 | 500円   | (175円) |
| 日曜大工のすすめ※         | (昭和62年6月号)  | 24頁 | 480円   | (175円) |
| 木造住宅の保守管理※        | (昭和62年12月号) | 23頁 | 460円   | (175円) |
| 木の良さ・木の香りを教室へ※    | (昭和63年7月号)  | 33頁 | 660円   | (250円) |
| 木質飼料※             | (昭和63年10月号) | 17頁 | 340円   | (175円) |
| 第38回木材学会大会の概要※    | (昭和63年11月号) | 33頁 | 660円   | (250円) |
| 最近の木工機械と刃物        | (昭和63年)     | 47頁 | 500円   | (51円)  |
| わかりやすい木材乾燥        | (平成元年)      | 38頁 | 1,500円 | (51円)  |
| 木造住宅の良さ           | (平成元年2月号)   | 26頁 | 800円   | (46円)  |
| 林産試験場の試験研究各部・科の紹介 | (平成元年7月号)   | 26頁 | 600円   | (46円)  |

註：品切れの場合はコピーになります。※印はコピー。